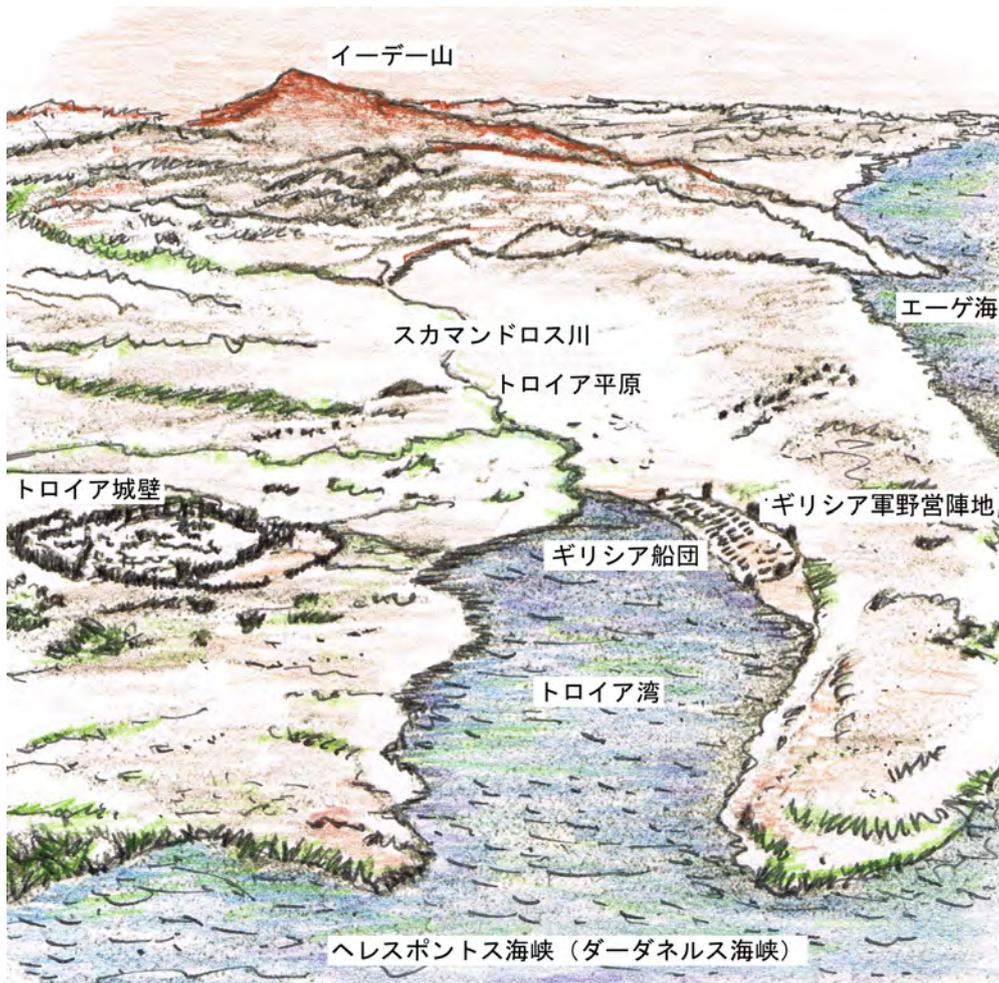


第3回 地震が終結させたトロイア戦争 - ホメロス「イリアス」の世界



トロイア戦争の布陣想像図 (Penguin Classics "The Iliad" 挿絵を模写の上名称追記)

絶世の美女ヘレナをめぐる、ギリシア世界とオリエント世界が死闘を繰り広げる破天荒な英雄物語がホメロスの「イリアス」だ。アレキサンダー大王はオリエント遠征の途上で、毎夜「イリアス」を枕頭において読み、戦闘意欲を高ぶらせたという。トロイア戦争はシュリーマンの発掘（1870年頃）以来、それが史実か否かが論争の的になってきたが、紀元前1200年頃に実際に起こった出来事だとする説が有力だ。最近の研究でも、青銅器時代から鉄器時代の変り目にあたる時期に地中海交易の覇権争いが継続したものの、勝敗の結末はよくわからない。当時は略奪や覇権争いのための戦争が日常であった。特にトロイアは黒海貿易（穀物や金属など）を独占しており、エーゲ海をめぐる覇権を狙うギリシアの天敵だったらしい。戦争はミケーネ時代の前1400年頃から長期間つづき、トロイアがギリシアを攻撃したことも再三あったという。「イリアス」ではトロイア平原における戦闘場面が息もつかせぬリズムで進行し、そこには人としての正義や共同体の倫理にまで議論が及ぶスケールの大きさがうかがえる。ホメロスは前8世紀の人と考えられるので、数百年前の伝説を誇張を交えた英雄叙事詩として謳ったのだろうか。

トロイアはアナトリアの西北部における古代の要衝地で、大きな富を蓄積していた城塞都市だった。その城壁はメソポタミア以来の伝統を引き継ぐ堅固なもので、ギリシア側の猛攻にも限界がありなかなか陥落しない。ローマ時代の口承詩「アエネーイス」（ウェルギリウス作）によれば、ギリシア軍を勝利に導いたのは木馬作戦だった。オデュッセウスらが木馬に忍んで堅固な城壁内に侵入し、形勢不利が一転して勝利に結びついたという。しかし「イリアス」では木馬作戦のことはいっさい出てこない。「オデュッセイア」で断片的に語られているだけだ。

その木馬作戦を筆者は「震災」の比喩的な表現ではないかと考えている。欧米の考古学者や歴史学者でそのように断言する人（たとえば E.H.Cline）もいる。トロイア戦争を終結に導いたのは地震だった可能性が高いのである。「イリアス」で英雄たちと並んで重要な役割を演じるのはオリンポスの神々だ。ギリシアの神々はとても人間的で、よく会議や宴会を行い、嫉妬心が強くて夫婦げんかもする。トロイア側のゼウスに対し、ギリシア側には地震の神・ポセイドンが味方についた。トロイアとギリシアの総力戦になる最後の戦闘で、神々も戦闘に加わり（第20歌）、ポセイドンの戦闘が以下のように述べられる－「かく至福なる神々はすさまじく雷を鳴らし、その下ではポセイドンが果てしなき大地と山々のそそり立つ峰々を揺り動かす。泉多きイーデーの山の根も頂きもことごとく、トロイアの町もアカイア（ギリシア）勢の船陣も揺れに揺れる」（松平千秋訳）。

実際、トロイアの城壁で地震によって破壊し

た跡が残っている。シュリーマンの発掘したトロイア遺跡は、その後の再発掘で9層からなっていることがわかり、第6層がトロイア戦争の時期にあたるといわれる。その第6層は地震で崩れたことが考古学調査でわかった。紀元前13世紀に北アナトリア断層を震源とする大きな地震が発生し、この周辺地域も大被害を受けたらしい。その結果、トロイアの黒海貿易は壊滅的な打撃を受け、経済的に立ち行かなくなった。またミケーネも地震の影響で衰退し、ギリシア世界全体が数百年に及ぶ暗黒時代に突入したという。

ギリシアが暗黒時代から立ち直り、次々と黒海沿岸からエーゲ海に面したアナトリア半島沿岸部に植民を開始したのは前800年頃からであった。オリンピアで4年ごとのスポーツの祭典が始まり（前776年）、同じ頃にローマというポリスが生まれた。ホメロスが「イリアス」と「オデュッセイア」を創作したのもその時期だ。ホメロスの英雄叙事詩はテンポとプロットが卓越していることもあって好評を博したらしい。そして古代から現代まで読み継がれ、時代と国境、宗教を超えて人々の心の拠り所、共同社会の行動規範にまで昇華されたのだ。古代ギリシアの生んだ世界最大の文学といわれるこの叙事詩には、歴史的事実としての震災もひそんでいることを指摘しておきたい。

（参考図書）

- Homer (E.V.Rieu訳) "The Iliad" (Penguin Books) 1950年
- ホメロス (松平千秋訳) 「イリアス (上下)」 (岩波文庫) 1992年
- フィンリー (下田立行訳) 「オデュッセウスの世界」 (岩波文庫) 1994年
- H.Duchene "The Golden Treasures of Troy" (Gallimard) 1995年
- E.H.Cline "The Trojan War" (Oxford University Press) 2013年
- ピカード (高杉一郎訳) 「ホメロスのイーリアス物語」 (岩波少年文庫) 2013年



ポセイドン像として伝わる紀元前5世紀の銅像
(アテネ国立考古学博物館、1994年撮影)